

日本教材学会関東・甲信越支部 平成29年度総会並びに研究会のご案内

初冬の候 日本教材学会関東甲信越支部は、下記の通り、総会並びに研究会を開催いたします。研究会では「主体的・対話的で深い学びと教材開発 ～算数・数学科を中心に～」をテーマに、会員である教師と研究者、出版社の方々との意見交換を通じ、授業実践と教材開発の議論が深まるものと考えております。また、今年度は新しい試みとして、大学院生による発表の機会も設定しました。

新学習指導要領の移行措置を来年度に控えた今、多くの皆様の参加をいただき、活発な会となることを願っています。また、総会においても、今後の支部会の進め方等ご発言いただければ幸いです。

記

- 1 日時 平成30年2月24日(土) 午後1時から午後4時30分まで
- 2 場所 早稲田大学 16号館306教室(新宿区西早稲田1-6-1)
JR山手線・高田馬場駅より都バス「学02」で「西早稲田」下車徒歩3分
東京メトロ・早稲田駅より徒歩10分 ※西門及び第2西門入ってすぐ左
(詳しくは早稲田大学HPの地図をご参照ください)
- 3 研究会テーマ 「主体的・対話的で深い学びと教材開発 ～算数・数学科を中心に～」
- 4 当日の日程 ※敬称略

- | | |
|-------|--|
| 12:30 | 受付開始 |
| 13:00 | 総会開会 |
| 13:30 | 研究会開会(研究会テーマ趣旨説明) |
| 13:35 | 講演「主体的・対話的で深い学びと教材開発 ～算数・数学科のこれから～」 講師：東京学芸大学教授 太田伸也先生 |
| 14:35 | 事例発表(4名) ※発表のテーマ及び概要は裏面参照 ○東京都品川区立源氏前小学校教諭 武笠 純子 氏 ○東京都港区立御成門中学校指導教諭 岸 順一 氏 ○(株)教育同人社編集部課長 山口 直人 氏 ○早稲田大学教職大学院2年 名知 秀斗 氏 |
| 16:00 | 発表者とフロアとの意見交換 |
| 16:25 | まとめ・閉会の辞 |
| 16:30 | 閉会 |

【担当】細谷美明(関東甲信越支部幹事)

【問い合わせ先】日本教材学会事務局(澤崎、今多)

〒162-0831 東京都新宿区横寺町6-4-2

電話 03(5946)8717

学会 Web サイト www.kyozai-gakkai.jp

<事例発表概要>

東京都品川区立源氏前小学校教諭

武笠 純子 氏

「主体的・対話的で深い学びを実現するための指導の工夫」～第4学年「変わり方」の事例を通して～

本単元では、伴って変わる2つの数量を見付け、その関係を明らかにすることが大きなねらいとなる。そのために、数量の関係を表に表すことよき気付、表をもとに変化や対応の特徴を考え、表や式、グラフ、もとの事象を関連付けて考えることができるように単元計画を立てた。主体的・対話的で深い学びを実現するために、単元構成、授業展開、振り返りの仕方などの手立てを工夫して行った授業の様子を発表する。

東京都港区立御成門中学校指導教諭

岸 順一 氏

『数学を学ぶ』から『数学で学ぶ』へ（指導観・教材観の転換）～「Save the Earth!!—地球温暖化と『関数』—」の実践を通して～

これまで「環境」を取り上げた授業実践は、総合的な学習の時間の他、社会科や理科、家庭科などの教科で横断的に取り上げられてきたが、数学から環境問題に取り組んだ実践は少ない。しかし、様々な問題が絡み合った環境問題を考えるためには、「数学」における分析—総合の思考が必要不可欠である。特に「関数」という視点でデータを見ることで、様々なつながりが見え将来の予測も可能になる。「関数」の考え方を自分のものにすることで、地球の未来や、自分たちに今何ができるのかということを考えるきっかけになると考える。「数学を学ぶ」から「数学で学ぶ」へ、生徒の意識が広がり深い学びへとつながることを願い、本教材を取り上げた。

早稲田大学教職大学院2年

名知 秀斗 氏

「学習のつまずきを防ぐ数学的問題解決プロセスに着目したシート開発」～アクティブラーニングを促すシートの可能性を視野に入れて～

本実践研究では、放課後教室で中学校2年生の8人に対し、3回分のプログラムを開発して実施した。内容は、一般的な文章題の問題解決過程と段階ごとで有効とされる方略が記されたシートを活用するものである。プログラムの実施中、つまずきが生じた際に、どの段階で間違っているのかを自問しながら、教師とともにシートから適切な方略を選択・活用し、つまずきを解消していく生徒の姿が確認された。他にも、方略を用いて「主体的」に解こうという姿、シートによって視覚化されたつまずきを教師・仲間・自己と「対話的」に確認する姿、分からない所が分からなくても、問題を発見・理解し、計画、実行、と段階的に「深く」落とし込んでいく姿が確認された。ここから、開発したシートは、利用法次第で、本実践研究が今大会テーマでもある「主体的・対話的で深い学び」つまり、アクティブラーニングにつながる可能性が考えられる。今回は、こうした視点と今後の展望を見通した発表を行う。

(株)教育同人社編集部課長

山口 直人 氏

「アメリカ向けの教科書開発で重視したこと」～主体的・対話的で深い学びを実現する紙面を目指して～

アメリカの小学校を対象として算数の教科書を開発しました。2017年9月（アメリカの新学期）からKindergartenとGrade1の販売を開始し、シカゴやサンフランシスコの小学校で採択されています。教科書の開発で最も重視したことは「主体的・対話的で深い学び」の実現です。未知の課題について、既習事項を活用して自力で解決し、友達の考えと比較して最善の方法を発見するという活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を目指しています。他にもこだわった日本流の教育や、教科書開発で苦労したことを発表いたします。